

第十章 感歎詞

感歎詞

凡て感動した時に發する聲音を感歎詞と云ひます。感歎詞は、文から獨立して用ゐ、又は文の先驅としてあらはれます。獨立して現れまするものは文と同様の價值を有つのでありまして、之を文章の單語と名をつけた人もあるであります。次に文の先驅としてあらはれるものの例を示します。

あ——あ、切れたり。

あ痛。イタ

ああ——ああ、悲し。

あああぶなかつた。

あら——あら言甲斐無の法師どもや。

あら、いやだ。

あな——あなむざんや。

あはれ——あはれ、めでたき月かな。

おう—おう、こはい。

おや—おや、にげたのか知らん。

まあ—まあ、美しいこと。

やあ—やあ、しくじつた。

やんや—やんや、出来^デした、く。

よう—よう、えらい。

えつ—えつ、いま／＼しい。

右の外「すは」は「すはや」これらよりや「それぞらほら」あれ等の如く人の注意を促す場合に用ゐるものもありや「あや」や「あし」も「い」で「どれどりや」「いさ」さあ「の如く呼びかける場合に用ゐるものもありはいはあへえいな」「いや」「え」なるほど等の如く應答する場合に用ゐるものもあります。併し感歎詞は文法上餘り大事な職能を有つて居るでもありませんから、簡単に之で済ませておきます。